販売高、初の150億円超　飼養管理強化で生乳増　ＪＡ大樹町　2021年５月29日

ＪＡ大樹町（坂井正喜組合長、組合員284人）の第73回通常総会が28日、同ＪＡ事務所で開かれた。2020年度の取扱販売高は151億1,515万円と初めて150億円を突破した。過去最高だった19年度を2.1％上回り、７年連続で増加した。

生乳生産量は過去最高の11万6,711トンで、前年度比4.5％増と順調に増産傾向が続いている。

各取扱販売高は、肉用牛を含めた畜産が同2.9％増の136億8,424万円、そのうち生乳が同7.1％増の105億8,042万円。農産物は同4.5％減の14億3,100万円だった。

生乳生産は、飼養管理の強化などが増産を下支えした。肉用牛の市場価格は近年に比べて下回ったが、育成・初妊牛は高値傾向が続いた。農作物は天候不順などのため、おおむね平年並みの収量となった。

経常利益は同19.2％増の２億574万円、当期剰余金は１億7,636万円、前期からの繰り越し分などを加えた当期未処分剰余金は２億157万円だった。

議事では欠員の理事に浅野邦雄氏を選任する案や新年度事業計画案などを原案通り可決。今年度は総販売支払高140億円の継続、生乳生産12万トンを目指すとした。

総会は269人が出席。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、書面議決を主とした。坂井組合長は「取扱販売高が過去最高となり、組合員のご努力に深く感謝したい。コロナ禍で消費が減退する中、それぞれの立場でフル回転、連携し、これからの農業を守りたい」と述べた。

販売高　過去最高225億円　酪農、畑作は堅調　ＪＡ鹿追町　2021年５月30日

ＪＡ鹿追町（木幡浩喜組合長、組合員264人）の通常総会が28日、同ＪＡで開かれた。2020年度は畜産品が価格下落の影響を受けたものの、酪農、畑作は堅調で、農畜産物販売高は225億6,316万円（前年度比0.8％増）と過去最高を更新した。

生乳生産は11万6,983トン（0.8％増）。搾乳牛の頭数、１頭当たりの乳量共に増加した。肥育牛の取扱頭数は5,087頭で前年度並みだったが、コロナ禍で相場が大きく下落。鶏卵などを含めた畜産物全体の販売高は48億6,988万円（5.1％減）となった。

畑作は春の低温と降雨、その後の干ばつなど気象条件は厳しかったが、小麦や豆類、キャベツは高品位多収量となった。全体では60億8,865万円（1.8％増）だった。

経常利益は３億3,896万円（23.1％減）、当期未処分剰余金は３億2,723万円（12.7％減）。

総会は新型コロナの感染拡大防止のため書面議決を中心に開催。第10次農業振興計画最終年度となる今年度は、大きなハード事業は計画していない。現計画に基づいて整備した種子馬鈴薯貯蔵施設でのＡＩ（人工知能）カメラによる画像選別の試験稼働、加工用キャベツの自動運転収穫機の実証試験などを予定している。

木幡組合長はあいさつで、政府の規制改革推進会議でホクレンの分割が議論されていることに触れ、「コロナで需給バランスが崩れ、乳価の不安定材料が増している今こそ、酪農家と乳業会社、指定団体が連携を強化していくべき」と述べた。

販売高2.5％減56億円　西岡組合長を再任　ＪＡ陸別町　2021年５月30日

ＪＡ陸別町（西岡悦夫組合長、組合員109人）の通常総会が28日、同ＪＡで開かれた。2020年度の農畜産物総販売高は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う肉牛市場価格の変動などが響き、56億6,700万円（前年度比2.5％減）にとどまった。任期満了に伴う役員改選では西岡組合長を再任した。

総会には、感染症対策として書面による出席81人を含む95人が出席した。

生乳生産は４万282トン（0.6％増）で販売高37億1,500万円。生乳増産奨励事業の展開などで堅調に推移し、５年連続の４万トン台を達成した。畜産販売は5,221頭（0.1％増）で19億400万円となった。ビート、小麦などの農産物は前年度比増減なしの4,000万円。経常利益は4,300万円、当期未処分剰余金は3,600万円だった。

今年度の生産目標は、生乳４万2,419トン（39億1,527万円）、畜産販売4,895頭（18億5,817万円）を計画。また、生活基盤強化と生産振興対策の各事業を継続して実施する。